

“伊勢物語” = 普遍的な愛の教科書！

～ 元祖イケメン歌人・業平の人生から学ぶ ～

- ◆出展 『伊勢物語』 作者不詳
- ◆出題校 学習院大学、筑波大学 など多数
- ◆時代・ジャンル 平安 歌物語

「東京スカイツリー駅」の旧称を皆さんは、御存じでしょうか。そうです。「業平橋駅」です。その駅名は『伊勢物語』の主人公・在原業平と関係があります。今回、多くの学校で試験範囲になっていました。『伊勢物語』は「昔、男、初冠^{うひかうぶり}して、平城^{なら}の京、春日^{かすが}の里に……」で始まる初段から始まり、「つひに行く道とはかねて聞きしかどきのふ今日とは思はざりしを」の歌で終わる百二十五段までの内容がほぼ、業平の一代記となっています。

美人姉妹への初恋 → 高貴な女性とのロマンスと破局 → 東国へ彷徨の旅
という貴種流離譚^{きしゆりゆうりたん}の前半部分のハイライト・「東下り」（九段）は、今回、都立S高校の試験範囲でした。隅田川の渡りで、都に残してきた愛しい人を想って詠んだ

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思う人はありやしやと

（その身に都という名を持っているのならば、さあ、たずねてみよう。都鳥よ、私の愛する人は都で無事であるか、いないのかと。）

の歌は、「言問橋」のネーミングの由来ともいわれています。

先週、試験対策の授業で「小野の雪」（八十三段）を扱いました。業平と惟喬親王^{これたかのみこ}の変わらぬ男の友情を描いた段でしたが、「なんで、翁（年を取った業平）は、泣いているのか」と質問を受けました。「藤原氏のせいで、有力な皇位継承者だったのに出家してしまった親王に、深く同情して涙を流しているんだ」と説明したところ、「業平っていい人なんだね」と、生徒は納得してくれました。いつの時代も友情は人の心を打つようです。皆さんには、古典に親しみ、外見はもちろん、物語に感動できるような豊かな内面をもった美男・美女になって欲しいものです。その手助けができていますか？ 自問自答しながら日々授業をしています。

（国語科主任：八木）